

環境影響評価書案のここが問題！

交通量は減るのに、計画交通量は増える？

本当に 34,200 台 / 日も車が通るの？

都は「環境影響評価書案」において、3・3・8 号線が開通予定とされる 2019 年度の計画交通量を、最大 34,200 台 / 日と予測しています。現府中街道の交通量は 18,139 台 / 日ですから、その約 1.9 倍に及ぶという予測です。本当に、こんなに多くの車が通るようになるのでしょうか？

近年、交通量は横ばいか減少傾向です

現府中街道の自動車走行台数は、2001 年から 2009 年まで、ほぼ横ばいです（「小平市の環境」2010 年度）。同様の傾向は、全国、関東臨海部（東京、神奈川、埼玉、千葉）の交通センサスでも認められ、1999 年～2005 年の 6 年間で比較すると、いずれも 10% 以上減少しています。（図 2）

「近年の交通量は減少傾向であり、過大な推計ではないか」と、国会でも審議されています。また、東京都自身、高齢者の増加や、人口が 2015 年をピークに減少に向かうことを、今後の東京の大きな問題として認めています。（「東京の都市づくりビジョン（改定）」2009 年 7 月）

これらの状況を考慮すると、2019 年度に交通量が 34,200 台 / 日に及ぶという予測が、多すぎることは明白です。過大な交通量予測に基づいて無駄な道路を作るよりも、そのお金をもっと有効に使うことを求める人は多いのではないのでしょうか。

日々の暮らしを支え、潤いをもたらす緑のこと

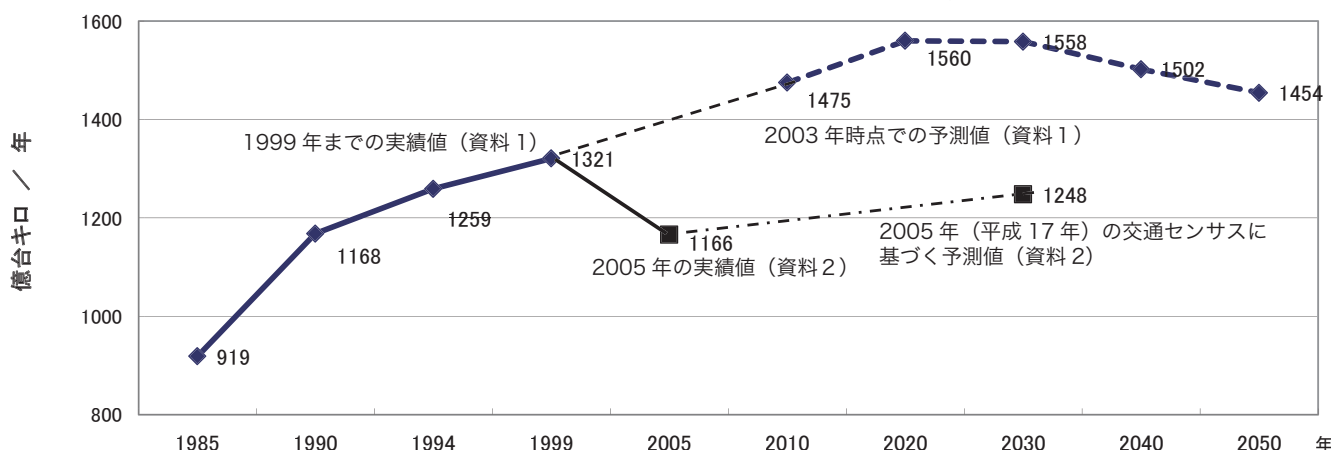
中央公園一帯の玉川上水と公園東側の樹林地は、「ひとつのつながり」としてあることで、私たちの暮らしを支えています。玉川上水は、ご存じのように、散策に訪れる多くの方に親しまれています。樹林地でも、ホテルのタベ、ツリーライミング、自然観察会、幻燈会、プレーパーク、アートフェスティバル等、様々な催しが行われています。住民がこれほど足を踏み入れて楽しめる雑木林は、そうはありません。

また、この緑は催しに使われるだけでなく、普段の暮らしを支えています。太極拳やゲートゴルフ、休憩の場所であり、認知症のご婦人が安心して歩き回り、退職後の男性たちが同じ境遇の仲間と過ごす場でもあります。園児たちも、遠足にやってきます。

この場所が利用しやすいのは、車の危険がなく、安心していられる場所だから。そして、なんといっても気持ちいい！ この夏の酷暑日でも緑道や樹林地は涼しく、温暖化問題を肌で感じました。

東京都は、この場所を道路にする場合、ここの樹木を「可能な限り環境施設帯に移植する」と言いますが、環境施設帯では、ゲートゴルフも自然観察会もできません。そして、仲間との語らいも。

図 2 関東臨海（東京・神奈川・埼玉・千葉）交通量予測と実績



出典：資料 1 「関東地域における将来自動車走行台キロ」：「高速自動車国道の将来交通量推計手法説明資料（ブロック別将来走行台キロおよび自動車保有台数の推計）」2003 年（平成 15 年）12 月よりグラフ作成（実線および鎖線）（第 2 回東京外かく環状道路の計画に関する技術専門委員会「外環の将来交通量推計参考資料」別添 2）

資料 2 「交通需要推計と事業評価手法の見直し」（関東地方整備局事業評価監視委員会 2008 年度）2005 年実績値と、2005 年（平成 17 年）センサスによる 2030 年の交通量予測（一点鎖線）